



ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区 広報誌
第 18号

2018年(平成30年)
2月 20日
組織拡充委員会

来年度に向けて 登録審査会

2月11日(日)午後1時より、来年度の登録に向けて、地区登録審査会が築地本願寺和田堀廟所の蓮華の間で開催されました。各団の登録担当者は、継続登録に必要な書類やデータを持参し、地区の担当者から継続登録に必要な要件を満たしているか審査を受けて、提出を済ませました。



各国で活躍…海外派遣スカウト報告会



2月11日は午後4時30分から、築地本願寺和田堀廟所の本堂で、今年度の海外派遣スカウトの活動報告会が開催されました。

中野11団ボーイ隊の東條英臣さん、杉並5団ベンチャー隊の関戸陽輔さんとボーイ隊の関戸香識さんからは、平成29年7月25日から8月3日まで、モンゴルのウランバートルで開催された「アジア太平洋地域スカウトジャンボリー」に参加した報告があり、中野8団ローバー隊の沼上志帆さんから、平成29年7月24日から8月4日まで、アイスランドで開催された「世界スカウトムート」の報告がありました。



両国への海外派遣については、すでに地区報「あすなる」の第16号(2017.9.2)で詳細が報告されています。



また、中野11団ベンチャー隊の東條雅臣さんから、日韓スカウト交流会の報告がありました。

このプログラムは平成30年1月6日から14日まで、韓国から400人のスカウトと指導者を招聘し、1月6日から8日までの3日間、日本のスカウトとの相互交流を目的に福岡で開催されたものです。

東條さんからは、韓国のスカウトとの野外活動や普段の会話は英語で話すため、勇気を出して一歩踏み出し、話しかけることによって、国籍には関係なく友達になれることや、フォーラムでは自分の夢を英語でスピーチしたこと、日本の代表として閉会宣言したことなど、大きな成果があったことが報告されました。



海外派遣スカウトの活動報告



多くの方が報告会に参加されました



日韓スカウト交歓の発表

ハワイ派遣壮行会



スカウトの海外派遣報告会に引き続いて、3月12日～19日の予定でハワイに派遣することになったあすなる地区ローバーハワイ派遣の壮行会が行われました。

下地地区コミッショナーからは、参加ローバーでプログラムの作成、訪問先との折衝、往復飛行機のチケット手配など、手作りで進めてきたことが紹介されました。また派遣隊指導者の本間幹人さん（杉並3団ローバー隊長）から、派遣隊スカウトの10名が紹介されました。

派遣隊スカウトを代表して沼上志帆さん（中野8団）から、ハワイのスカウトとの国際交流計画やハワイ連盟の表敬訪問、アリゾナ記念館などの観光の予定などの発表がありました。

また、ローバーハワイ派遣隊の皆さんの大きな成果を期待して、飯沼地区コミッショナーの発声により、弥栄三唱で祝しました。



佐藤地区委員長から派遣隊指導者紹介



派遣スカウトの紹介



弥栄三唱

新春リーダーの集い

2月11日は午後6時から、築地本願寺和田堀廟所の蓮華の間で、恒例の新春リーダーの集いが開催され、各団の多くの方々が参加しました。

来賓として、杉並区の田中区长が参加され、ご挨拶をいただきました。参加された方々はお互いの懇親を深め、ビンゴゲームで番号の発表されるたびに喜びの声やため息が聞こえました。



田中杉並区長の挨拶



来賓の紹介



乾杯



ビンゴカードの番号を発表する各団リーダーの方々

菊スカウト、隼スカウト、富士スカウト おめでとう！

1月19日(金)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、以下のスカウトに菊スカウト章の伝達式が行なわれ、また富士スカウト章の記念品が佐藤地区委員長から授与されました。



菊スカウト 東條英臣 (中野11団)
 富士スカウト 室賀来知 (杉並13団)



また、2017年12月23日(土)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、以下のスカウトに菊スカウト章、隼スカウト章の伝達式が行なわれ、また富士スカウト章の記念品が佐藤地区委員長から授与されました。

菊スカウト 関戸 香織 (杉並5団)
 " 澁谷光太郎 (杉並13団)
 隼スカウト 芦崎俊太郎 (中野11団)
 富士スカウト 三田 史彬 (杉並11団)



隼スカウト章を取得するまで

中野11団ベンチャー隊 芦崎 俊太郎

ベンチャースカウトとして隼スカウトをめざし、昨年12月に隼スカウト章を取得することができました。

隼スカウトに必要な技能章については、家庭でアドバイスをしてもらったり、理解しにくかった細目は、理解できるまで、父に教えてもらったので、とても助かりました。

難しかった事はボーイ隊へのロープワークの技能指導で、私は人とコミュニケーションをとったり、相手にうまく説明する事が苦手なので、大変苦勞しました。

まずは、ユーチューブでロープワークの技能指導の動画を見たり、指導を受けるスカウト達の集中力が途切れたり、飽きさせないようにするには、どういう教え方がいいか、自分で考えてやりました。

そして、ロープワークの技能指導では、自分がカブ隊やボーイ隊の時に、隊長が僕達の前で、技能指導をしてくれたことを思い出しながら、スカウト達全体を見ながら指導し、上手くできていない子や、集中できないスカウトには、寄りそって指導しました。また、ふざけて遊んでいるスカウトには、注意をしました。スカウト達に対する目配りや気配りがとても大変でした。

隊長やリーダーの皆さんにご指導、ご協力していただいた結果、隼スカウト章を取得する事ができ、大変感謝しています。これからは、隼スカウト章の取得のために勉強したことを、奉仕活動や後輩スカウトへの指導に役立てたいと思います。



研修所・実修所事前課題研修会

2月17日(土)、あんさんぶる荻窪で研修所・実修所へ参加を希望する指導者の方々を支援するため、研修所・実修所事前課題研修会が開催されました。

研修所参加の条件としては、登録後1年以上を経過した満19歳以上で、ボイスカウト講習会の修了後1年を経過し、スカウトキャンプ研修会を修了していることが求められます。

研修会では開会式のあと、参加までの流れや、制服の着用基準・記章等の着用基準について説明がありました。

また、スカウトコースに関する説明では、隊指導者の訓練課程は「ボイスカウト講習会」、「基礎訓練課程」、「上級訓練課程」の3つの段階に分かれ、研修所は基礎訓練課程、実修所は上級訓練課程になること、研修所は隊指導者の基礎として受けることが望ましく、隊長になる指導者は研修所の修了が必須であることなどの説明がありました。

また、参加者はビーバー、カブ、ボーイ、団の各部門に分かれて、各担当コミッショナー、トレーナーと課題研修の取り組みなど、個別に研修を行いました。

研修所は課題研修と3泊4日のスカウトコース、一日の課程別コースとなっており、未修了の指導者の方は、今後の研修所・実修所事前課題研修会の参加により、研修所の修了、さらには実修所の修了を目指してください。



パインウッドダービー 手作りの車でタイムレース！

2月18日(日)、パインウッドダービーの地区予選会が中野区の南部すこやかセンターで開催されました。

パインウッドダービーは、カブスカウト活動の活性化とカブスカウトの交流を図るため、毎年開催されています。

スカウトの持ち込んだ力作の車は、会場入口の車検場で、大きさ、重さが規定通りかの計測が行なわれ、重量オーバーした車などは重量を調整したうえで、車検をパスしていました。

競技はうさぎ、しか、くまの各クラスで、4回のタイムレースがおこなわれて、最速の時間が成績となります。

出場資格はカブスカウトになりますが、カブスカウト以外の指導者などでも、「アンリミテッド」のクラスに出場できます。

また、スピードの順位とは別に、車体のデザインに工夫をこらした車や、色彩豊かな模様を描いた車などには、審査員の投票で「素敵なパインウッドカーで賞」の表彰がありました。

中野11団カブ隊副長補の谷川貴久さんは、「当団のカブ隊では、パインウッドダービーの準備を昨年11月から始め、組集会でスカウトが独自に車のデザインを決め、四角い木材の削る部分に目じるしを描き込みました。1月の組集会では屋外で木を削ったり、色づけを行い、2月の集会は大詰めで、コースのレーンがないため、テーブルの上で試走して重量の調整などの仕上げをしました」とのことで、スカウトとともに疾走する車を見つめて、好タイムの成績に歓声をあげるなど、レースを楽しんでいました。

ダービーの成績の集計ができるまで、参加したカブスカウト全員でゲーム大会を開催し、各団のカブスカウトとお互いの交流を深めました。

この地区予選会で、うさぎ、しか、くま、アンリミテッドの各クラスの成績上位者は、3月4日(日)、豊島区駒込の本郷学園で開催される東京大会に出場します。



受付



車体のサイズ、重量などの車検



装飾、色付けされた自慢の力作



開会式で佐藤地区委員長挨拶



どの車のタイムが一番？



4回のタイムレース



レディー・ゴー！！



採点できるまで全員でゲーム



くまのクラスの表彰

発団40周年記念式典を開催

杉並11団 副団委員長 諏佐道宏

1月28日、杉並11団は発団40周年記念式典をカトリック下井草教会で開催し、御聖堂で西村ローバースカウトの進行により記念式典が行われました。

当団は1978年(昭和53年)1月に、団の母体であるカトリック下井草教会のドン・ボスコ御祝いミサにおいて正式に発団し、今年で40年になります。当時の主任司祭カルメロ・シモンチェリ神父様のお声掛けにより、初代育成会長の阿部先生、初代団委員長の有田様をはじめ、教会の皆様、杉並地区の指導者のお力添えによりボーイ隊から発団されました。その後、団委員長に阿部様、田部様、西様、そして現在の第5代の佐藤団委員長が就任し、団の運営が引き継がれました。歴代の団委員長と団委員、各隊リーダーの方々のご苦勞なしには、今日の佳き日を迎えることはできなかつたと思います。

記念式典ではお世話になった方々へ感謝状が贈呈され、スカウトを代表して、吉岡ベンチャースカウトと古澤ボーイスカウトの二人が、これからも元気よく活動をしていくことを誓いました。続いてのドン・ボスコ御祝いミサでは、教会の皆様と一緒に、40年の歩みを振り返りながら、西本神父さまのお話に耳を傾けました。

当団は現在スカウト60名余りと指導者40名余り、合わせて100名余りの陣容をここ数年維持しています。これはビーバースカウトからカブスカウトへ、さらにボーイスカウトへと上進する大きな流れがあることや、ビーバー隊の入団の動機として、普段の活発な活動についての口コミの力が大きいようです。また、40年続くお正月の地域伝統行事のどんど焼参加や区の生活支援施設での奉仕、また、アウトドア教室開催など、地域での活動に力を入れ続けてきたことも実を結んでいると信じています。

ミサの後の懇親会では、昨年テレビ取材を受け放映されたスカウト運動の現状のニュース映像もながされて、都会の自然の中で技術を身につけ、社会に役立つ人間になるスカウト活動を実践する団として、当団が取り上げられたことを、来賓の皆様と一緒に楽しむことが出来ました。

これからの10年先、さらにその先のスカウト活動、特に若い指導者の養成をどうするかを、今の指導者だけで考えることは難しいでしょう。ご来賓の方がスカウトに「どうか活動を続けて下さいね」と声をかけ、励ましていただきました。今回の式典でも活躍してくれたスカウトがこの運動を続け、発展させてくれることを心から願っています。



カトリック下井草教会



育成会長挨拶



感謝状の贈呈



代表スカウトの決意表明



参列された方々



記念ミサ



参加者全員で記念撮影



そろいの記念Tシャツで祝賀会



弥栄三唱

みんなでアウトドア！体験イベントの実施 杉並4団 カブ隊長 水野雄大

2017年12月17日(日)に和田堀公園で、カブスカウト隊の野外料理集会に、地域の方を招いてボーイスカウト1日体験イベントを実施しました。

当日は気持ちよく晴れて、杉並4団のこれまでの体験イベントの中でも、最も多い体験者が参加してくれました。普段、さわがしいスカウトたちもお兄さんらしい顔つきになり、地域の子供たちを仲間に迎え入れて元気に活動しました。今年の4団のカブスカウト隊のよいところは、お互いに声掛けをして頑張れることです。その良さが、このイベントでも発揮することができ、参加した全員が仲良くなれる雰囲気を作ることができたと思います。

今回は野外料理集会ということで、「簡単な料理をつくる体験」「包丁を使う体験」「火をつける体験」をするため、メニューはカレーライス、おにぎらず、コーンサラダ、焼きマシュマロを作りました。

おにぎらずや焼きマシュマロづくりでは、調理器具を一切使わないため、簡単に料理が作れることを知ってもらい、家庭でもお手伝いできるきっかけになっていれば幸いです。

コーンサラダは、たくさんの野菜がありましたので、包丁を使ってもらいました。「猫の手！」とお互いの声をかけながら、包丁を慎重に使っていた姿が印象的でした。

最後は、マッチで火をおこすことを体験してもらいました。火は怖いものではなく、きちんと注意すれば、役に立つものということを学んでもらいました。

お昼はグループごとに仲良く食事をとりました。自分たちで作った料理を食べるのは、いつもよりもおいしかったかもしれません。昼食後はみんなで片付けて、残すのは感謝のみというボーイスカウトの精神に触れてもらいました。

そのあと、参加者同士が2人1組になって「二人三脚リレー」に取り組み、チームワークを発揮してもらいました。二人の息が合わないと、なかなか前に進みませんが、限られた時間の中でも、どのペアも歩けるようになっていたのは驚きでした。

1日の楽しい活動を通して、参加いただいた体験の方々との仲間意識も高まりましたが、最後はまた会う約束をして「仲良しの輪」をして解散しました。

体験イベントは継続的に行い、たくさんの方に活動を経験してもらうことで、効果が高まるものと考えています。3月の下旬にも第2弾としてこのイベントに続く1日体験集会を開催する予定です。少しでもボーイスカウト活動に興味をもってもらえる子どもたちを増やしていきたいと思います。



天皇誕生日一般参賀国旗配り奉仕

杉並13団ボーイ隊 澁谷光太郎

平成29年12月23日、皇居にて、天皇誕生日の一般参賀に来場した方たちに国旗を手渡す奉仕をして参りました。杉並13団は神社スカウト協議会からの依頼を受け、ボーイ隊が毎年この奉仕に参加しており、今年で15回目の参加になります。例年天皇誕生日は晴れていることが多く、この日も晴れていて、私がこれまで参加した中ではとても寒い日もありましたが、この日は気温も高めだったのでよかったです。



皇居に到着すると、たくさんの国旗が入った段ボールを渡されます。それをたくさんのスカウトで分け、参賀の方に1本1本手渡しします。もちろんにこやかな笑顔は忘れません。参賀者は年配の方が多く、皆さん穏やかな笑みを浮かべながら「ありがとう」と言って下さり、私たちが温かい気持ちになります。

ここ最近では外国人の参賀者も増えているのは少し驚くところでもあります。残念ながら外国人の参賀者の殆どは日の丸の国旗を受け取ってはくれませんが、天皇陛下のお誕生日と一緒に喜ぶこと、また喜んでいる日本国民の姿を見ることは、外国人観光客の方たちにも深い思い出になっているのではないかと思います。

さて、国旗を手渡すのが一通り終わると、私たちが参賀に加わるよう促されます。かなり後ろの方からにはなりますが、たくさんの方たちと天皇ご一家のお出ましを見られ、天皇陛下のお誕生日をお祝い申し上げることができることは、毎年感慨深いものがあります。

今の天皇誕生日の奉仕はあと1回の見通しです。そして2020年元日に新しい天皇ご一家の新年の参賀があり、2月に天皇誕生日の参賀になるのでしょうか。私は4月からはベンチャー隊になりますが、この奉仕に引続き参加して、新しい時代への移り変わりを見てみたいと思います。



にこやかに国旗を手渡します



天皇ご一家お出ましです



大勢の方たち



私たちが後ろの方から参加しました

ついに杉並9団でもビーバー隊発隊！ 杉並9団 団委員長 浅原房夫

杉並9団は来年（2019年）には発団50周年を迎えますが、その間ずっとビーバー隊はなく、スカウトの募集、入団はカブ隊からというクラシックなスタイルでした。

しかし、ビーバー隊の発隊に向けて、初代ビーバー隊長となった伊藤隊長のウッドバッジ研修所ビーバー課程の修了と、発隊に向けたビーバースカウトの募集と準備段階の活動の開始を経て、昨年8月にリーダー3名、スカウト9名の構成でビーバー隊を発隊することができました。

発隊の後、ビーバー隊は毎月の活動を順調に続けて、クリスマス会や餅つきのイベントなども開催し、「かまどで火おこし」の募集イベントを開催してさらに新入隊員を迎えることができました。

また、今春には初の女子スカウトの入団もあり、ビーバー隊からカブ隊に2名が上進することとなりました。

ビーバー隊の発隊にあたって、ご支援、ご尽力を頂きました多くの関係者の方々、地区役員の皆様方に改めて感謝いたします。

杉並9団では正月のスキーキャンプの2週間後に、恒例の餅つきを開催しています。

これまでの餅つきはカブ隊が中心の行事でしたが、今回からは初めてビーバー隊のスカウトも餅つきに参加することになり、りっぱに餅つきができました。

つきたての餅はお母さんたちの手で、きな粉をまぶしたり、あべかわ、おろし大根などで味付けがされて、参加した団全員がお腹いっぱい食べることができました。

右の写真でスカウトたちの背後は伊藤隊長、スカウトの右でサポートをするのは関野副長、マスクの女性は斎藤副長で、ビーバー隊の初代のリーダーたちです。



ビーバー隊のスカウトたちは、関野副長や先輩スカウト達の応援を得て、重たい杵を振り下ろし、順番に元気よく餅をつきました。

ボーイやベンチャー、ローバーのスカウトになると、杵の振り下ろしにも力がこもり、お餅の返し手を担当しても、餅を折り畳むようにする手つきには落ち着きがあって、余裕を感じました。

来年もビーバー隊のスカウトをはじめ、団全員が参加する餅つきの開催が楽しみです。



地区ネッカチーフができました

これまであすなる地区には、地区の行事に際して、地区役員やスタッフの方が着用するあすなる地区のネッカチーフがありませんでしたが、このたび新しく地区ネッカチーフを調製しました。

色は明るい青色で、杉並と中野の両地区が一つの方向に向かって進む願い込めた、あすなる地区の三角マークの下部に「東京・あすなる地区」の文字が刺繍されています。

あすなる地区の諸行事にスタッフとして参加いただく場合、また東京連盟や他の地区の行事などにあすなる地区として参加する場合などに、地区のネッカチーフを着用ください。

ご希望の方は、組織拡充委員長の広瀬までお問い合わせください。

